

# 小児における口唇と舌の形態・機能に関する研究

## 目的

最近では、お口ぼかんのように、お口をうまく使えない小児が増えてます（**口腔機能発達不全症**）。

口唇閉鎖力が弱く、舌を上手に動かせない小児では、歯並びが悪くなる、面長でぼんやりとした顔貌になる、ことが言われています。これは口腔周囲の筋肉の調和した使い方を習熟していないことが原因と考えられています。

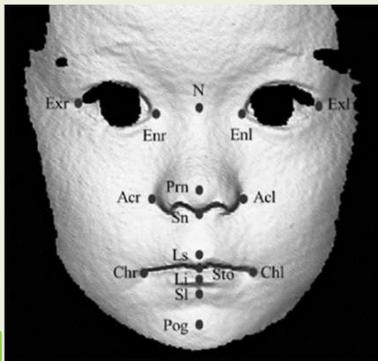
そこで**口腔機能発達不全症**の小児において、口唇や舌の形態を比較することで、成長発育にどのような影響があるか検討しています。そして口腔機能を高めることで、子どもの健全な発育を促せないかと考えています。

## 口唇閉鎖不全と顔面形態の関係性

口唇閉鎖不全の小児



3D写真撮影



顔面に測定点を設定し、顔面形態を比較した。

口唇閉鎖不全は、3歳の時点から顔面の成長へ影響を及ぼしていることを解明。

(E. Inada, I. Saitoh, et al.: Pediatric Dental J., 31, 2021.)

顔面形態の解析

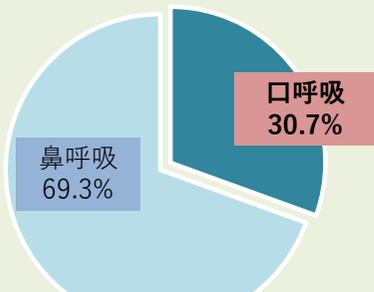


「口唇閉鎖不全症の顔面形態の特徴」

- 鼻尖点が低い
- 鼻唇点/鼻下点が前方に出ている
- 上口唇/下口唇が突出している
- オトガイが後方に下がっている

(齊藤一誠: お口ぼかんPerfect Guidebook, 松風.)

「口呼吸の小児の割合」



日本での疫学調査対象：3,399人

(Y. Nogami, I. Saitoh, et al.: EHPM, 2021.)

## 舌の形態に関する研究



舌の写真撮影、測定点を設定して形態を分類



舌圧の測定

測定点の位置から舌の形態を分類し、舌圧測定の結果と関連させて解析中

## 現在の取り組み

- 口唇閉鎖不全症の小児における、顔面・軟組織形態への影響の解析
- 小児の舌の形態・機能についての解析
- 小児の舌機能による顔面・軟組織形態への影響の解析
- 口腔機能発達不全症の小児における、顔面形態・歯列・全身発育の関連性についての解明

## 期待される成果

- 小児期から始まる健康長寿
- 小児期の口腔機能に関する認識度の向上
- 口腔機能発達不全症の臨床的評価基準の改良
- 世界に先駆けた口腔機能に関する医療機器開発
- 先端医療イノベーションの創造とそれを担う人材育成